

# 議 事 録

目 的	第4回尾鷲市総合計画審議会 部会協議
-----	--------------------

日 時	平成28年8月25日(木) 19:00~20:15
-----	---------------------------

場 所	本庁3階 第1委員会室
-----	-------------

部 会 名	第3部会
-------	------

内 容	<p>○出席者 委員：佐々木 康次 氏・岩本 芳和 氏・北村 伸 氏・北村 豪 氏・塩崎 保夫氏 市：木のまち推進課 内山課長・千種市有林係長 水産商工食のまち課 野地課長・民部課長補佐兼観光交流係長・三鬼水産振興係長兼水産商工基盤整備係 市長公室 山本主査</p> <p>○主な協議等内容 ・次回開催日 平成28年9月30日(金) 19時～ ・質疑応答 以下のとおり</p> <p>進行：部会長 佐々木 康次 氏</p> <p>○質疑・意見</p> <p>【重点的な取り組みについて】</p> <p>・委員 水産加工組合では、食のまちづくりの取り組みとして、年に1回中学校生徒に対して魚さばき体験に協力しているが、回数をもっと増やした方が効果があるように感じる。市場を見学させるなどしてもよい。食のまちの推進にあたり、若い世代に地元の食生活に興味を持ってもらい、食のレベルを上げることも必要ではないか。</p> <p>・野地課長 重点項目「次代担う人づくり」ライフステージに応じた食の伝統文化の体感に基づいて、取り組みを進めていきたい。</p> <p>・三鬼係長 小学校でも、干物づくりやアオリイカの産卵床設置し、アオリイカの料理教室を行うなど、1年を通じて取り組みを行なっている。魚まつりなどで、干物づくりや3枚おろしの体験を行なっている。いろんな機会を通じて、若い世代に興味を持ってもらえるような取り組みを今後も進めていきたい。</p> <p>・委員 長久丸や尾鷲物産が水揚げしている。市外の方たちに対するPRが必要。水揚げイベントに参加したが、地元の人々が中心であった。</p>
-----	---

・野地課長

外部の人を呼び込む目線は必要。情報発信に取り組んで行きたい。

・委員

尾鷲の食、おおざっぱな感じがする。意味が分かりにくい。具体的にした方が分かりやすいのではないか。また、おわせ応援団づくり、どのようなイメージをしているのか。情報を発信するだけでは、受け手が答えてくれなければ、効果性に疑問が残る。

・野地課長

「食」の中には、食材、加工品、飲食などを包括している。食のまちづくり基本計画や実施計画に近いレベルでは具体的に書いている。その上位計画である総合計画では、包括的に書いているが、ご指摘を受け、出来る範囲で具体的な記載も検討していきたい。

・山本主査

「おわせ応援団」に関しては、ホームページやFACEBOOKなど、WEBを使った情報発信に加え、出身者会へのアプローチなど、双方向のやりとりの意味合いも含んでいる。情報の受け手がどのように感じていただけるのかは重要な要素であるため、ご指摘を踏まえ、記載内容について検討していきたい。

【各施策について】

・委員

魚のブランド作り、尾鷲で揚がる単品の魚のブランド化を指しているのか。

・三鬼係長

鮮度保持や情報発信など、いろいろな要素を含んだ総合的な表現としてブランド作りのことを指している。

・委員

尾鷲北・南インターの開通について、開通までに尾鷲に人を呼び込む仕組みが必要。紀北町では、開通前に来訪客にアンケートを取っていた。北側の各道の駅にパンフレットを配置していた。熊野古道の地域資源の活用について、熊野古道の旬は過ぎたとの指摘がある。これまでの取り組みではなく、新しい取り組みが必要。

・野地課長

商工・観光を併せて、目的地として、尾鷲に降りてもらい取り組みが必要なので、食をテーマとしたまちなかへの誘客、熊野古道とまちなか散策を組み合わせた着地型観光商品の開発、夢古道おわせなどの観光集客施設の充実などを取り組みとして記載している。情報発信については、シティープロモーションにより、尾鷲の魅力や個別イベントの情報発信に取り組んで行きたい。

・委員

熊野市が歌を作ってテレビなどで配信している。シティープロモーションとはそのような取り組みイメージなのか。

・野地課長

いろいろな取り組みが考えられるが、有料メディアを使ったプロモーションや、パブリシティの活用による方法がある。それらを一体で取り組んで行きたい。

・委員

尾鷲にメガマウスが3匹も水揚げされたのは世界でも珍しい事例。このことを市のPRに活用できないか。細く深い情報は、マニアには受けると思う。メガマウスの研究所の設置を検討しても面白い。

・野地課長

総合計画への記載については難しいが、パブリシティを活用するため、情報発信のキャッチコピーとしては面白いと思う。

・委員

尾鷲湾にある「佐波留島」は、とあるキャラクターに似ていることから、訴求力はあると思う。2年くらい前にブームがあった。このキャラクターが好きな人の集客も考えられる。

・民部補佐

パンフレットに佐波留島の写真を採用しており、クイズでのキャラクター名称の採用を考えたが、商標登録の問題があり、採用しなかった経緯がある。

・野地課長

行政としての情報発信は難しいが、個人の口コミでの効果は見込める。

・委員

古江のアクアステーション、取水施設に深海魚が揚がっていると聞いたことがある。それらの魚を水族館のように展示しても面白い。熊野古道の活用については、八鬼山の民話で、悲恋の物語がある。これを逆手に取り、絵馬などを使った恋愛成就などの取り組みを行ない、集客を図ることも面白い。行政では難しいと思うので、観光物産協会などと相談し、若い人を集客できる手段としてほしい。

・野地課長

深海魚は今でも揚がっているが、頻度は少ない。アクアステーション内の水槽ではオオグソクムシを入れていたこともある。イベント的に考えていきたい。絵馬などの利用については、まちの駅ネットワーク尾鷲などにも相談してみたい。

・委員

全体的に取り組み内容にボリュームがある。各地区に物産があっても、実際に食べられるところがない。各地区で特産品の開発などの取り組みが始まっているが、施設的な問題がどうしてもある。特区の活用も含めて、建物の中で共用できることができると、地区活動も増えてくると思う。

・野地課長

総合計画なので、全体的にカバーできる内容とはなっているので、ボリューム感はどうしてもある。生産面に関しては、保健衛生上の問題がある。

・山本主査

各地区の抱える地域課題解決のため、現在は地域おこし協力隊が各地区の取り組みを支援している。コミュニティービジネスへの支援として、その内容については、基本施策111で記載している。なお、各個別の事案については、相談に応じていきたい。

・委員

まちなか歩きについて、旧町名と現在の町名と比較できるようなマップがあっても面白い。また、史跡なども活用したマップなど、まちなか歩きができるようなものがあるとよい。

・民部補佐

ふるさとガイドの会が説明しながら案内してくれている。資料は残っているので、ガイドが集まる会議のときに提案してみたい。

・委員

尾鷲の路地は魅力的と聞く。ロードサイドから誘客出来る仕組みづくりに、路地を歩いてもらって、史跡などの位置がわかるような取り組みが必要。

・野地課長

スタンプ会、まちの駅、おわせ棒などでまちなかへの誘客に取り組んでいる。史跡、歴史、文化、食、景観など、情報を整理して、誘客のための情報を発信していくことも必要であるので、取り組んでいきたい。

